

病を扶けて防ぎける事、今如斯く刻より木が刻まで
長途の兵糧をもきつ降りくまを先途と接合する
鬼を欺く兵共も疲れて足を立置きたる義光之を見
澄まして陣と相合のち敵を打ち付けしを遂に
と伏し居る兵ども一なる隙をさう山の腰へ走り出で
輝宗公の陣へ接合し入り二巨挺の銃炮と雨
霰の如く登掛けには壁の如く響きあらず敵想よ
らぬ事ツレバ輝宗公の旗を馳立て集山崩れをくや
ひきき合ふ所先途一軍して弱くと休居る山形

勢相圖の時分今ぞとて延清能全守例の旗棒掲げ
て真先の麓の如く飯田少郎も我方とぞと喚び薙る
之を見て惣軍勢氏家屋敷守を始して十四段の備
え打物以て我先と切りつ接合し探んで戦へる仙台勢
先陣後陣一つあつて前部と追接あり討死する
輝宗公之を見て澄澄とさう立ち下知りのひけり
は見替へる味方の敵様一しりも何程の事う
ろろづきけ戦場を逃延びて何地まで行くべきを還
るに討死せしめて自らも死を以て進みぬとて近所手